

「この人 15」

黒澤 正行 74歳 福島県

黒 澤 開拓農家でしたので中学にも行ってはおらんです。
しかし、文芸が好きでいろいろ書いておりました。
新聞に投稿したところ、運よく入選したことで
病みつきになりました。

八 木 滑稽句をつくるようになったのは？

黒 澤 それが意識せんでも自然にできたのです。
可笑しい句は投稿しなかったです。
可笑しい句がたくさんできました。
すべてお蔵入りにしていたのですが、朝日新聞で滑稽俳句
協会のことを知りまして、投稿させていただいています。

八 木 滑稽句の秘訣は？

黒 澤 自然に生まれます。ただしテーマを決める。
たとえば鳩山さんが[自分で決めます]と言うけれどなかなか決
められない。そこで決められないをテーマにするわけです。
新聞の一行がヒントになることが多いです。

八 木 滑稽句ができたときはうれしいですね

黒 澤 それはもう・・・叫びたい気持ちですよ。
こんな田舎に住んでても「笑い」という
俳句の先頭を走ってるという満足ですね。

八 木 それでは代表句を・・・

- ・小春日や牛の欠伸の尾に抜ける
- ・犬を追ふ幼子の手に蠅叩
- ・厩出しの子牛に急所蹴られけり
- ・困り果て残雪に尻押しつけむ
- ・日向ぼこ煙のやうな元閣下